

白木寛テナーサクソスリサイタル

病に打ち勝つ魂のテナー♪時に優しく、時に激しく、ムーディーなサウンドをあなたに・・・

パーキンソン病とは

パーキンソン病とは、脳の中の黒質と呼ばれる場所に存在するドーパミン神経が脱落してなくなっていってしまう病気です。進行性の病気で、一旦発症すると自然によくなったり治ったりすることはありません。特徴的な4大症状として「振戦(ふるえる)」「固縮(かたい)」「寡動・無動(おそい)」「姿勢反射障害(こるびやすい)」

チューリップは、パーキンソン病のシンボルです

「あと1回は大きな舞台に立ちたい」
読売新聞(2022年10月10日付朝刊)千葉版にあるミュージシャンの記事が掲載されました。記事の最後に記された言葉から、今回の公演が企画されました。千葉市で活動する様々な方々が諦めず「夢を持ち続け、夢を叶える！」場所。それが「ちば市民夢ステージ」です！

千葉市難病対策事業

「難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく医療費助成制度」「指定医療機関・指定医の申請受付」「難病相談・難病講演会」「難病患者等ホームヘルパー養成研修」「在宅人工呼吸器使用患者支援事業」などの事業を行うと共に、千葉市難病相談支援センター(国立病院機構千葉東病院)を設置し、地域で生活する難病患者の方やそのご家族等の日常生活における相談・支援、地域交流活動の促進などを行う拠点として、患者の方等の療養生活を支援しています。

保健福祉局健康福祉部健康支援課
電話：043-238-9968



難病対策事業 HP

サクソ奏者 病と闘う



コンサートで演奏を披露する白木さん。この日は職業のアンコールにも応えた(千葉市緑区)

パーキンソン病の白木さん

千葉市緑区在住のテナーサクソ奏者、白木寛さん(56)は、運動障害などを引き起こすパーキンソン病を患いながら音楽活動に励んでいる。診断を受けてから5年半が経過し、病状は確実に進行している。それでも体が動くうちは演奏を止めないという。ステージに立ち続けている。(渡辺寛平)

白木さんが体調の異変を感じたのは、7年半前にジョギング中に左足も疲れるようになった。それから約2年後、思ってもいなかったパーキンソン病との診断を受けた。

パーキンソン病は、運動にかかわる神経伝達物質「ドーパミン」を分泌する脳の神経細胞が減り、手の震えや歩行困難などの症状が出る難病。最終診断を受けた時は涙があふれた。「大好きなテナーサクソが、できなくなる。そんな

病状進行でも音楽諦めない

絶望感に襲われた。

「こんなひどい病も漏らした。ただ、すぐに明るい表情を取り戻し、あと一回は大きな舞台に立ちたい」と宣言した。白木さんはこれからは音楽と共に生きていく。

白木寛 Profile

読売新聞朝刊 千葉版 2022年10月10日記事

山口県立防府商業高等学校卒業後、海上自衛隊東京音楽隊に入隊。その後、武蔵野音楽大学へ入学。在学中からプロのテナーサクソ奏者として活躍。武蔵野音楽大学中退。第5回古賀政男記念音楽大賞奨励賞受賞。現在、パーキンソン病と闘病しながらも、音楽活動を継続している。

千葉市若葉文化ホール
Chiba City Wakaba Culture Hall

千葉市若葉区
千城台コミュニティセンター
Chishirodai Community Center

施設のお申込み、主催事業等公演のお問合せは、お気軽に(通常窓口業務時間：午前9時～午後6時)

千葉市若葉文化ホール ☎ 043-237-1911 chiba-aw.jp/wakaba
千城台コミュニティセンター ☎ 043-237-2241 chiba-aw.jp/chishiro

最寄駅よりのアクセス ※駐車場台数に限りがございます。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

千葉都市モノレール「千城台駅」徒歩3分(〒264-0004 千葉市若葉区千城台西2-1-1)

